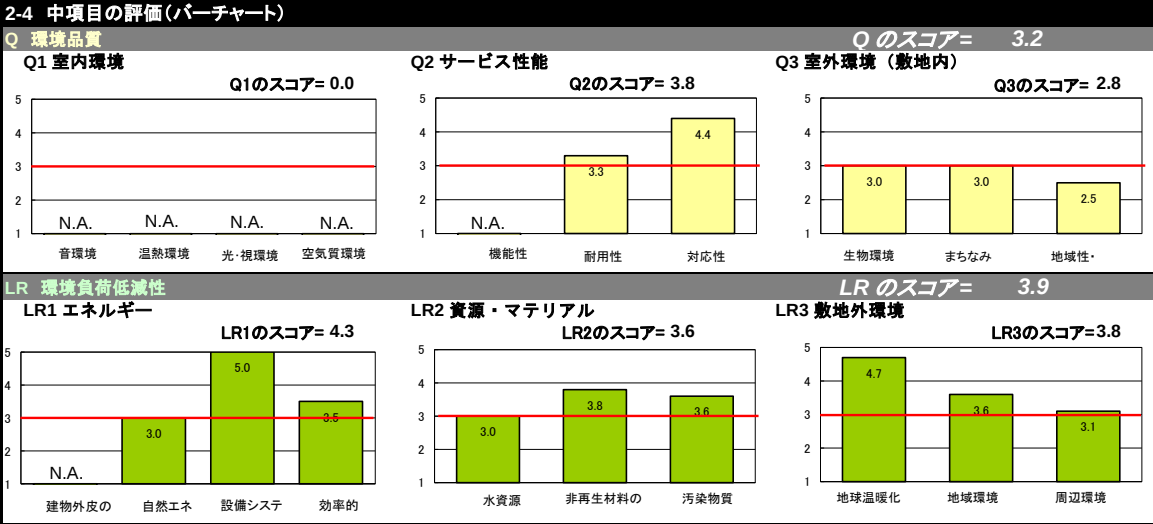
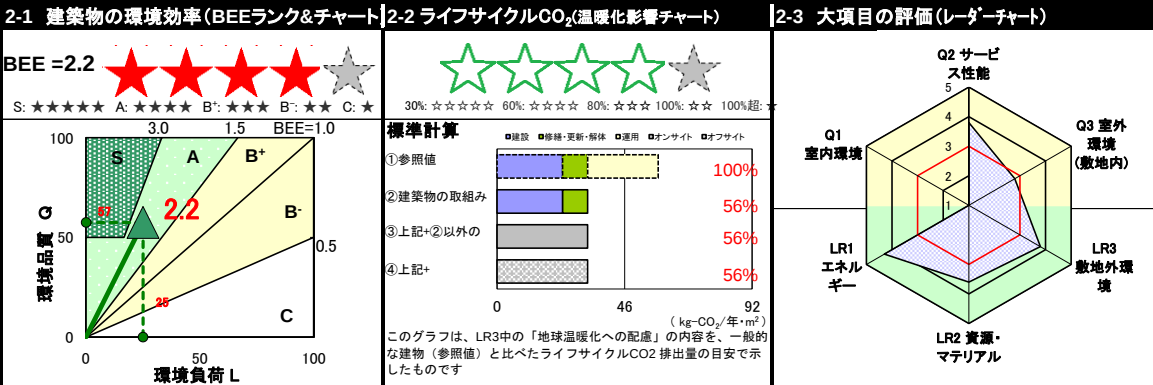




評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2016年版+あいち版手引き | 使用評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2016(v3.0)_AICHI

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	株式会社中央倉庫名古屋営業所(仮)	階数	地上4階
建設地	愛知県あま市七宝町伊福孫字40番 ほか22筆	構造	SRC造
用途地域	市街化調整区域 法第22条区域	平均居住人員	20 人
気候区分	6地域	年間使用時間	8,760 時間/年
建物用途	工場	評価の段階	実施設計段階評価
竣工時期	2027年1月 予定	評価の実施日	2024年11月5日
敷地面積	18,722 m ²	作成者	戸田建設株式会社
建築面積	4,313 m ²	確認日	2024年11月5日
延床面積	14,601 m ²	確認者	戸田建設株式会社 小林秀樹



3 重点項目	
①地球温暖化への配慮	③敷地内の緑化
4.7	3.0
②資源の有効活用	④地域材の活用
3.8	1.0

外構緑化指数(外構緑化面積/外構面積)	23.4 %
建物緑化指数(建物緑化面積/建築面積)	0.0 %
＜外装材に使用した地域性のある材料＞	なし
＜建物の構造材・内装材、外構に使用した地域性のある素材＞	なし

各重点項目は、以下の評価項目の得点により算出されています。

①地球温暖化への配慮

LR-3 1 地球温暖化への配慮

②資源の有効活用

Q-2 2 耐用性・信頼性、Q-2 3 対応性・更新性

LR-2 2 非再生性資源の使用量削減

③敷地内の緑化

Q-3 1 生物環境の保全と創出

外構緑化指数 = $\frac{\text{中高木の樹冠の水平投影面積} + \text{低木・地被等の植栽面積}}{\text{敷地面積から建物面積(建築面積及び附属物面積)を除いた}}$ × 100

建物緑化指数 = $\frac{\text{屋上緑化面積} + \text{壁面緑化面積}}{\text{建物によって占有された部分の水平投影面積(法定面積)}}$ × 100



CASBEE-建築(新築)2016年版+あいち版手引き
株式会社中央倉庫名古屋営業所(仮)

■使用評価マニュアル:

CASBEE-建築(新築)2016年版+あいち版手引き

■評価ソフト:

CASBEE-BD_NC_2016(v3.0)_AICHI

スコアシート		実施設計段階								
配慮項目	独自基準	環境配慮設計の概要記入欄	建築物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体			
	重点項目		評価点	評価点	重み係数	評価点		評価点	重み係数	
Q 建築物の環境品質								3.2		
Q1 室内環境										
1 音環境										
1.1 室内騒音レベル				3.0	-	-	-	-		
1.2 遮音										
1 開口部遮音性能										
2 界壁遮音性能										
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)										
4 界床遮音性能(重量衝撃源)										
1.3 吸音										
2 温熱環境										
2.1 室温制御										
1 室温				3.0	-	-	-	-		
2 外皮性能				3.0	-	-	-	-		
3 ゾーン別制御性				3.0	-	-	-	-		
2.2 湿度制御				3.0	-	-	-	-		
2.3 空調方式				3.0	-	-	-	-		
3 光・視環境										
3.1 昼光利用										
1 昼光率				3.0	-	-	-	-		
2 方位別開口										
3 昼光利用設備				3.0	-	-	-	-		
3.2 グレア対策										
1 昼光制御				5.0	-	-	-	-		
3.3 照度				3.0	-	-	-	-		
3.4 照明制御				3.0	-	-	-	-		
4 空気質環境										
4.1 発生源対策										
1 化学汚染物質				3.0	-	-	-	-		
4.2 換気										
1 換気量				3.0	-	-	-	-		
2 自然換気性能				3.0	-	-	-	-		
3 取り入れ外気への配慮				3.0	-	-	-	-		
4.3 運用管理										
1 CO ₂ の監視				3.0	-	-	-	-		
2 喫煙の制御				3.0	-	-	-	-		
Q2 サービス性能					-	0.43	-	-	3.8	
1 機能性										
1.1 機能性・使いやすさ										
1 広さ・収納性				3.0	-	-	-	-	-	
2 高度情報通信設備対応				3.0	-	-	-	-	-	
3 バリアフリー計画			独自	3.0	-	-	-	-	-	
1.2 心理性・快適性										
1 広さ感・景観 (天井高)				3.0	-	-	-	-	-	
2 リフレッシュスペース				3.0	-	-	-	-	-	
3 内装計画				3.0	-	-	-	-	-	
1.3 維持管理										
1 維持管理に配慮した設計				3.0	-	-	-	-	-	
2 維持管理用機能の確保										
2 耐用性・信頼性				0.5	3.3	0.52	-	-	3.3	
2.1 耐震・免震・制震・制振				0.4	3.0	0.48				
1 耐震性(建物のこわれにくさ)				3.0	3.0	0.80				
2 免震・制震・制振性能				3.0	3.0	0.20				
2.2 部品・部材の耐用年数				0.3	4.2	0.33				
1 躯体材料の耐用年数					3.0	0.25				
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔			②		5.0	0.25				
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔					5.0	0.10				
4 空調換気ダクトの更新必要間隔										
5 空調・給排水配管の更新必要間隔					5.0	0.17				
6 主要設備機器の更新必要間隔					4.0	0.25				
2.4 信頼性				0.1	2.8	0.19				
1 空調・換気設備				3.0	3.0	0.20				
2 給排水・衛生設備				3.0	2.0	0.20				
3 電気設備				3.0	3.0	0.20				
4 機械・配管支持方法			②	3.0	3.0	0.20				
5 通信・情報設備				3.0	3.0	0.20				

3 対応性・更新性			0.4	4.4	0.48	-	-	-	4.4
3.1 空間のゆとり			0.3	5.0	0.31	-	-	-	
1 階高のゆとり			-	5.0	0.60	-	-	-	
2 空間の形状・自由さ			3.0	5.0	0.40	-	-	-	
3.2 荷重のゆとり			3.0	5.0	0.31	-	-	-	
3.3 設備の更新性			0.3	3.5	0.38	-	-	-	
1 空調配管の更新性			-	-	-	-	-	-	
2 給排水管の更新性			3.0	3.0	0.20	-	-	-	
3 電気配線の更新性			3.0	5.0	0.13	-	-	-	
4 通信配線の更新性			3.0	5.0	0.13	-	-	-	
5 設備機器の更新性			3.0	3.0	0.27	-	-	-	
6 バックアップスペースの確保			3.0	3.0	0.27	-	-	-	
Q3 室外環境(敷地内)			-	-	0.57	-	-	-	2.8
1 生物環境の保全と創出			-	3.0	0.30	-	-	-	3.0
2 まちなみ・景観への配慮			-	3.0	0.40	-	-	-	3.0
3 地域性・アメニティへの配慮			0.3	2.5	0.30	-	-	-	2.5
3.1 地域性への配慮、快適性の向上			-	2.0	0.50	-	-	-	
3.2 敷地内温熱環境の向上			-	3.0	0.50	-	-	-	
LR 建築物の環境負荷低減性			-	-	-	-	-	-	3.9
LR1 エネルギー			-	-	0.40	-	-	-	4.3
1 建物外皮の熱負荷抑制			3.0	-	-	-	-	-	-
2 自然エネルギー利用			3.0	3.0	0.13	-	-	-	3.0
3 設備システムの高効率化			3.0	5.0	0.63	-	-	-	5.0
4 効率的運用			0.2	3.5	0.25	-	-	-	3.5
集合住宅以外の評価			1.0	3.5	1.00	-	-	-	
4.1 モニタリング			3.0	4.0	0.50	-	-	-	
4.2 運用管理体制			3.0	3.0	0.50	-	-	-	
集合住宅の評価			-	-	-	-	-	-	
4.1 モニタリング			-	-	-	-	-	-	
4.2 運用管理体制			-	-	-	-	-	-	
LR2 資源・マテリアル			-	-	0.30	-	-	-	3.6
1 水資源保護			0.1	3.0	0.15	-	-	-	3.0
1.1 節水			3.0	3.0	0.40	-	-	-	
1.2 雨水利用・雑排水等の利用			0.6	3.0	0.60	-	-	-	
1 雨水利用システム導入の有無			3.0	3.0	0.67	-	-	-	
2 雑排水等利用システム導入の有無			3.0	3.0	0.33	-	-	-	
2 非再生性資源の使用量削減			0.6	3.8	0.63	-	-	-	3.8
2.1 材料使用量の削減			-	5.0	0.07	-	-	-	
2.2 既存建築躯体等の継続使用			-	3.0	0.25	-	-	-	
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用			-	5.0	0.21	-	-	-	
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用			3.0	3.0	0.21	-	-	-	
2.5 持続可能な森林から産出された木材			3.0	-	-	-	-	-	
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み			3.0	4.0	0.25	-	-	-	
3 汚染物質含有材料の使用回避			0.2	3.6	0.22	-	-	-	3.6
3.1 有害物質を含まない材料の使用			3.0	3.0	0.32	-	-	-	
3.2 フロン・ハロンの回避			0.6	4.0	0.68	-	-	-	
1 消火剤			-	-	-	-	-	-	
2 発泡剤(断熱材等)			-	4.0	1.00	-	-	-	
3 冷媒			3.0	-	-	-	-	-	
LR3 敷地外環境			-	-	0.30	-	-	-	3.8
1 地球温暖化への配慮			-	4.7	0.33	-	-	-	4.7
2 地域環境への配慮			0.3	3.6	0.33	-	-	-	3.6
2.1 大気汚染防止			-	5.0	0.25	-	-	-	
2.2 温熱環境悪化の改善			-	3.0	0.50	-	-	-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制			0.2	3.5	0.25	-	-	-	
1 雨水排水負荷低減			-	4.0	0.25	-	-	-	
2 汚水処理負荷抑制			-	3.0	0.25	-	-	-	
3 交通負荷抑制			-	5.0	0.25	-	-	-	
4 廃棄物処理負荷抑制			-	2.0	0.25	-	-	-	
3 周辺環境への配慮			0.3	3.1	0.33	-	-	-	3.1
3.1 騒音・振動・悪臭の防止			0.4	3.0	0.40	-	-	-	
1 騒音			-	3.0	1.00	-	-	-	
2 振動			-	-	-	-	-	-	
3 悪臭			-	-	-	-	-	-	
3.2 風害、砂塵、日照障害の抑制			0.4	3.0	0.40	-	-	-	
1 風害の抑制			-	3.0	0.70	-	-	-	
2 砂塵の抑制			-	-	-	-	-	-	
3 日照障害の抑制			-	3.0	0.30	-	-	-	
3.3 光害の抑制			0.2	3.7	0.20	-	-	-	
1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策			-	4.0	0.70	-	-	-	
2 屋外の建物外壁による反射光(グレア)への対策			-	3.0	0.30	-	-	-	

重点項目スコアシート
 (中央倉庫名古屋営業所(仮))

実施設計段階

■使用評価マニュアル

CASBEE-建築(新編)2016年版+あいも版手引き

■評価ソフト:

CASBEE-BD_NC_2016(v3.0)_AICHI

重点項目(配慮項目)		評価点	全体に対する 重み係数	重点項目スコア
① 地球温暖化対策				4.7
LR3-1	地球温暖化への配慮	4.7	0.10	3.8
② 資源の有効活用				
Q2-2	耐震性・信頼性	3.3	0.22	
Q2-3	対応性・更新性	4.4	0.21	
LR2-2	非再生性資源の使用量削減	3.8	0.19	
③ 敷地内の緑化				3.0
Q3-1	生物環境の保全と創出	3.0	0.17	外構緑化：23.4%/建物緑化：0%
④ 地域材の活用		(評価ポイント)		1.0
Q3-2 4)	地域性のある素材による良好な景観形成	0.0	-	なし
Q3-3.1 I 2)	地域性のある材料の使用	0.0	-	なし

■重点項目スコア算出式

各重点項目スコアは、以下の方法により算出されています。

①地球温暖化への配慮、③敷地内緑化

重点項目スコア=各配慮項目の評価点

②資源の有効活用 (評価点×全体に対する重み)の総和

重点項目スコア= 重みの総和

④地域材の活用

重点項目スコア=評価ポイントの合計+1

■ 環境設計の配慮事項

■ 建物名称 (株)中央倉庫名古屋営業所(仮)

計画上の配慮事項	
総合	・あま市に新築される工場である。 ・高効率な設備機器の採用等により、CO2削減にも積極的に取り組む計画となっている。
Q1 室内環境	・対象外。
Q2 サービス性能	・将来の用途変更の可能性等を考慮し、建物の階高、空間の形状・自由さにゆとりを持った計画としている。
Q3 室外環境(敷地内)	・敷地内緑化により、ヒートアイランド現象の対策を行うと共に、良好な景観形成に配慮した計画としている。
LR1 エネルギー	・高効率な設備機器を採用し、エネルギーの効率的利用に配慮している。
LR2 資源・マテリアル	・躯体材料に電炉鋼材を使用することで、リサイクル材の採用に配慮している。
LR3 敷地外環境	・燃焼機器の設置をなくし、大気汚染防止に配慮している。
その他	